

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称	農業経済学					授業形態		講義	
科目コード	710112	単位数	4単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	姜 暲求								
授業概要	農業経済学を学んだことのない農学系の受講生が、日本農業の基本的な知識を、経済学の観点から理解できるように構成されている。そのためにまず、ミクロ経済学の基礎的な生産者理論・消費者理論および貿易理論を学び、その理論と日本農業の発展過程、農産物の生産ー市場取引ー消費を実際のデータと照らし合いながら考察する。								
関連する科目	履修前：経済学。 履修と同時： 履修後：農業政策論I・II、農産物流通原論。								
授業の進め方 と方法	理論は基礎的なミクロ経済学を学び、現実の理解は各種報告書やデータを理論的観点から考察する。 随時小テストする。テーマに応じてネット検索し、議論する。実際にデータで分析してみる。								
授業計画 【第1回】	1. 授業の導入 授業の進め方、農業経済学とそのカバー範囲などを紹介する。								
授業計画 【第2回】	2. 一般的な生産理論 生産関数（農産物生産と要素投入との関係）を用いて農業発展の概念、労働生産性の概念、技術進歩の概念、教育研究の重要性などを学ぶ。								
授業計画 【第3回】	3. 日本農業の発展過程と協同農業普及事業（Cooperative Extension Service） 協同農業普及事業（CES）は、日本の農業発展にとって最も重要な新技術普及を担っている。農業発展過程においてCESが担った役割と現状について学ぶ。また、CESについてネット検索して議論する。								
授業計画 【第4回】	3. 日本農業の発展過程と協同農業普及事業（Cooperative Extension Service）ー続きー								
授業計画 【第5回】	4. 生産者の利潤最大化：1つ生産要素投入と1つ農産物生産 まず、限界（marginal）概念を学び、生産関数・費用関数・利潤関数を用いて生産者利潤を最大化する生産量について学ぶ。								
授業計画 【第6回】	5. 生産者の利潤最大化：2つ生産要素投入と1つ農産物生産 生産関数・費用関数・利潤関数を用いて生産者利潤を最大化する要素投入量の組合せと生産量について学ぶ。そのために、6回目は等量線、（生産要素間の）技術的限界代替率、等費用線及び生産要素価格の変化などについて学ぶ。								
授業計画 【第7回】	5. 生産者の利潤最大化：2つ生産要素投入と1つ農産物生産ー続きー 6回目に学んだ知識を基に、生産関数・費用関数・利潤関数を用いて生産者利潤を最大化する要素投入量の組合せと生産量について学ぶ。更に、これを用いて規模の経済性について学ぶ。ネット検索で米や牛乳生産において規模の経済性を確かめてみる。								
授業計画 【第8回】	6. 生産者の利潤最大化：2つ生産要素投入と2つ農産物生産 生産関数・費用関数・利潤関数を用いて生産者利潤を最大化する要素投入量の組合せと生産量の組合せについて学ぶ。そのために生産可能性フロンティア、（生産物間の）限界生産変形率、等収入線及び生産物価格の変化などについて学ぶ。ネット検索で農産物の相対価格と生産量との関係を調べる。								
授業計画 【第9回】	7. 消費者の効用最大化 消費者は与えられた予算（所得）の下で、自己の効用（utility）最大化するように、財サービスの量を組合せて消費する。9回目は効用関数と予算制約線を導入して、効用を最大化する消費量の組合せについて学ぶ。また、予算制約が変わったとき、効用最大化消費量の組合せが如何に変化するかを学ぶ。それと共にエンゲル係数・法則、正常財・劣等財について学ぶ。ネット検索でエンゲル係数・法則を確認し、議論する。								
授業計画 【第10回】	7. 消費者の効用最大化ー続きー 9回目の知識を基に、財サービスの相対価格が変わったとき、効用最大化消費量の組合せが如何に変わるかを学ぶ。これを用いて需要関数を導出する（8回目の結果から供給関数も導出する）。また、需要や供給が変化する（シフトする）要因について学ぶ。								
授業計画 【第11回】	8. 弾力性 農業経済学（経済学）は弾力性概念を用いて様々な分析を行う。需要の価格弾力性、需要の所得弾力性（劣等財、必需財、奢侈財）、需要の交差弾力性（代替財、補完財）、需要の価格弾力性と生産者収入との関係について学ぶ。ネット検索で果実や野菜の所得弾力性を確認し、議論する。								

授業計画 【第12回】	9. 市場分析：完全競争市場 完全競争市場とは「ある生産者または消費者が、市場の価格形成に影響する力（market power）を持っていない市場」である。大多数の農産物市場は完全競争市場である。10回目で導いた需要関数と供給関数を用いて、完全競争市場における価格形成と取引量について学ぶ。ネット検索で野菜や果実の市場価格及び取引量の変化を調べて、議論する。
授業計画 【第13回】	10. 余剰分析 農業政策による結果の良し悪しを判断する方法の一つとして、余剰分析が使われる。12回目の知識を基に、経済厚生（消費者余剰、生産者余剰、社会余剰）について学ぶ。
授業計画 【第14回】	中間テストと補足 ここまでの内容をテストし、疑問点などを議論する。
授業計画 【第15回】	11. 市場分析：（売り手）独占 生産者が一社である場合、売り手独占市場になる。独占市場になる状況、そのときの利潤最大化生産量及び完全競争状況の生産量と比較、独占による経済厚生の変化について学ぶ。
授業計画 【第16回】	12. 市場分析：独占的競争 農業者も自己の生産物を他者のそれと差別化（ブランド化、特別な栽培など）を図る。独占的競争市場になる状況、短期均衡、参入退出の障害、長期均衡、完全競争市場との経済厚生差について学ぶ。
授業計画 【第17回】	13. 市場分析：寡占 農産物市場が寡占市場になることは稀であるが、投入財（大型農業用機械、F1品種など）市場と農産物加工品（大規模な野菜・果実加工品）市場はそうではない。寡占状況における生産者間の競争について学ぶ。ネット検索で上位企業の市場集中を調べてみて議論する。
授業計画 【第18回】	14. 市場分析：買い手独占 ある農産物は限られた産地で生産され、専ら原料として特定の加工企業に売られる（例：タバコ）。（原料の）限界投入費用の概念を導入し、買い手独占市場の均衡について学ぶ。
授業計画 【第19回】	15. 農産物貿易 国家間の貿易パターン決定の理論と貿易による経済厚生、貿易制限手段について学ぶ。また、農産物貿易の長期的動向をネット検索で確認し、議論する。19回目は貿易パターン決定の理論について学ぶ。
授業計画 【第20回】	15. 農産物貿易一続き一 貿易による経済厚生、貿易制限手段について学ぶ。
授業計画 【第21回】	15. 農産物貿易一続き一 農産物貿易の長期的動向をネット検索で確認し、議論する。
授業計画 【第22回】	16. 農業生産基盤変遷と農業生産者 2回目に学んだ「一般的な生産理論」の生産要素がどのように変わってきたか、生産された農産物とどのような関係にあるか、をデータで確かめる。更に、生産要素のうち、最も根源的な生産要素である農業者（農業労働力）に焦点を当てて議論する。
授業計画 【第23回】	17. 米の生産基盤と生産及び家計需要変化 米に焦点を当て、生産基盤と生産動向、家計需要の変化をネット検索して議論する。また、稲作農家の生産費を分析してみる。
授業計画 【第24回】	18. 野菜の生産基盤と生産動向、家計需要の変化 野菜に焦点を当て、生産基盤と生産動向、家計需要の変化をネット検索して議論する。また、指定野菜14品目のうち、一つを選んで当該野菜作農家の経営費を分析してみる。
授業計画 【第25回】	19. 果樹の生産基盤と生産動向、家計需要の変化 果樹に焦点を当て、生産基盤と生産動向、家計需要の変化をネット検索して議論する。また、生産額の多い上位6位品目のうち、一つを選んで当該果樹作農家の経営費を分析してみる。
授業計画 【第26回】	20. 中間財需要 多くの農産物が生鮮のまま家計で消費されるが、中間財（中食・外食及び加工の原材料としての）需要も大きなウェイトを占めている。中間財需要の変化をネット検索して議論する。
授業計画 【第27回】	21. 市場分析演習 13回目で学んだ「完全競争市場モデル」を用いて米、野菜、果実の価格弾力性や所得弾力性、交差弾力性などを求めてみる。27回目は市場の需給関数をExcelで計測する方法を学ぶ。
授業計画 【第28回】	21. 市場分析演習一続き一 27回目で学んだ知識を使って米の市場需給関数を計測する。計測結果を議論しながら米の需要と供給について理解を深める。

授業計画 【第29回】	21. 市場分析演習—続き— 24回目で各自が選んだ野菜の市場需給関数を計測する。計測結果を議論しながら野菜の需要と供給について理解を深める。
授業計画 【第30回】	21. 市場分析演習—続き— 25回目で各自が選んだ果実の市場需給関数を計測する。計測結果を議論しながら果実の需要と供給について理解を深める。
授業の到達目標	農業経済学を専攻としない農学系学部生が、日本農業を経済学的視点で理解すること。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学修 【予習】	農林水産省のウェブサイト (http://www.maff.go.jp/index.html) などを検索し、農業経済関連の事情を知識化する。
授業時間外の学修 【復習】	農林水産省のウェブサイト (http://www.maff.go.jp/index.html) などを検索し、農業経済関連の事情を知識化する。
課題に対する フィードバック	小テスト、中間テスト、演習の課題を解説する。
評価方法・基準	小テスト・中間テスト成績 (70%) と演習の課題 (30%) で評価する。
テキスト	資料を配布する。
参考書	1. John B. Penson, Jr. ほか「Introduction to Agricultural Economics - 5th ed.」Prentice Hall, 2010. 2. 農林水産省「食料・農業・農村白書」 3. 暉峻衆三編「日本の農業150年-1850~2000年-」有斐閣、2013.
備考	パソコンを持参すること。